

comachi plus

2024 Annual Report

子育てを、まちでプラスに。

comachi plus

2024 Annual Report

認定NPO法人 こまちぷらす 2024年度年次報告書

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町145-6 奈良ビル2F

☎ 045-443-6700 ✉ staff@comachiplus.org



こまちぷらす <https://comachiplus.org>

こまちカフェ <https://comachicafe.com>

こよりどうカフェ <https://coyoridocafe.com>

※ 本書の本文・資料等をご使用される場合は、当法人までご一報ください。



comachi plus

こまちぶらすのはじまり

こまちぶらすは、理事長の森自身の出産直後の「何かぼっかり穴があいたような感覚の日々を過ごしたこと」に始まります。その状況から抜け出せたのは、幾つかの偶然やタイミングが重なり、素敵な「まち」の人たちと過ごし、参加する機会に奇跡的に出会えたことでした。こまちぶらすでは、その出会いが「偶然」の重なりや奇跡的にどこから降ってくるのを待つものにするのではなく、仕組みとしてつくっていきたいと思い、活動を始めました。最初に取り組んだのは、必要な情報が適切な方に届くようにする「地域こそだてカレンダー」「幼稚園情報冊子」づくりと、「こまちカフェ」の運営です。カフェはお金も場所もなく週一日、場を借りるところからのスタートでした。

VISION	MISSION	SLOGAN
子育てが「まちの力」で豊かになる社会へ	孤立した子育てをなくし それぞれの人の力が活きる機会をつくる	子育てをまちでプラスに

こまちぶらすの2030年ビジョン



アトリエあちゃった

こまちぶらすのクレド

自分自身

私の原点、私の琴線、私の専門性

自分の原点、「楽しい」、共感、安心、ありがたい姿を大事にしよう。

自分の視野は5度

自分の見えている視野はたったの5度、他の人から見えている5度も意識しよう。

組織の仲間

豊かにゆらぐ

「正しさも本当にそうなのかと、つなかりのなかで豊かにゆらいでみよう。

「のりしろ」と「関わりしろ」のあるチームに

嬉しいエピソードを仲間と共有しよう。人が関われる余白を仕事の中心につくらう。

社会や時代

声なき声を聴き、翻訳しよう

埋もれたニーズを一人一人の声やデータから拾って伝えるよう翻訳していこう。

やってみななくちや、わからない

未来は誰もわからない。あれこれ考えてもわからないときは、まず小さく動こう。

自分自身

ラベルで人を見ず、人の6面を見る

人は自分が今見ている1面のほか、5面くらいあることを忘れないようにしよう。

良くしようとするのはやめたほうがよい

自分が「良い」と思っていることだけを基準に相手の状況を変えようとしな

ま

遠くに行きたければみんなで行く

自分たちだけでもやろうとしない。時間がかかってもみんなでいけば遠くにいく

関わる人が幸せに、ま

関わる人、一人一人が嬉しく、ま

ちも結果豊かになる循環をつくらう。

社会や時代

未来は誰もわからない。あれこれ考えてもわからないときは、まず小さく動こう。

6つの視点と土台

自分自身

社会や時代

ビジョン・ミッション

組織の仲間

お客様や活動対象者

まち／コミュニティ

尊厳・人権・法律はもちろんのこと、最後は良心に照らして行動する

クレドとはラテン語で「志・信条・約束」を表す言葉で、一人ひとりが活動や団体にどうやって関わっていくか、関わっていききたいか、「自分」と「自分の活動や組織」との約束を表現したもの。

理事長よりメッセージ

小学校のころに読んだ「ふきのとう」という詩の最後の方に、春風に吹かれて竹やぶがゆれて、雪がとけて「ふきのとう」がぐんと背を伸ばして土の上に顔を出すシーンがあります。

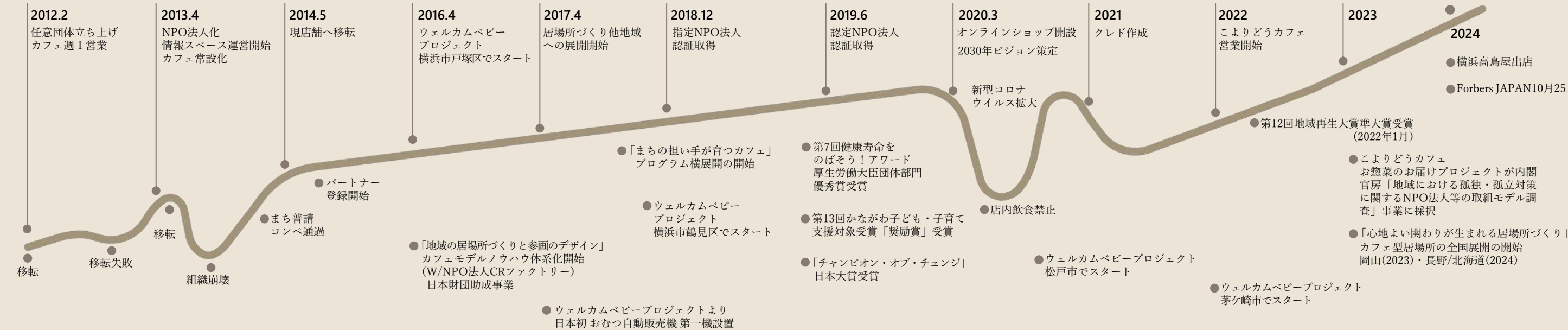
私はその一節がとても好きなのですが、2024年はまさにそんなシーンのような一年でした。2022年～23年にかけて立ち上げたいくつかの事業や場（こよりどうカフェ）が定着し、継続できるようみなさんと、さらに次の絵を描いていくことができました。この一年と一緒に考え、つくってくださった全てのみなさんに感謝いたします。

2025年度は小さなつぶやきに耳をすませながら、子育てが「まちの力」で豊かになる社会を目指して、遊び心と日常を大切に、みなさんと一つ一つの事業をつくっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

認定特定非営利活動法人
こまちぶらす 理事長
森 祐美子



こまちぶらすのあゆみ



こまちぷらすの事業紹介



こまちカフェ



戸塚区内の農家と連携し、季節の野菜をたっぷり使ったランチを提供。平日ランチタイムは見守りボランティアスタッフがいます。ハンドメイド雑貨(haco+)の販売、卵・小麦・乳製品不使用のスイーツの開発・製造・販売のほか、レンタルスペースの貸し出し、イベントの開催も行っています。

地域での居場所となるよう、つながりや仲間を得たり相談したりする関係性を築けるよう運営中です。



こまちカフェ



haco+

こよりどうカフェ



こまちカフェの姉妹店で、400年の歴史を持つ善了寺の境内のお堂にて運営しています。

まちの様々な人にとっての「ヨリドコロ」が増えるよう、こまちカフェ同様ランチの提供等に加えて、金曜日夜のterabaru営業、近隣保育園や就労移行支援事業所との連携にも力を入れ、地域でのゆるやかな出会いのきっかけをつくっています。



ウェルカムベビープロジェクト



「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし、子育てを応援できる社会になること」を目指しているプロジェクトです。

横浜市戸塚区において2016年4月に、赤ちゃんを家族をお祝いする気持ちをこめて、地域と企業から「出産祝い」をお送りすることからスタートしました。



ただい間のおうち



月1回金曜日の夜に、不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている児童・生徒(学齢期)の親子が外に出て、家族以外の第三者と交流できる場を提供しています。

名称には、学校・家庭・ともだちなど様々な場所・関係の「間」のほっとできる場所でありたい、という意味が込められています。



居場所立ち上げ伴走プロジェクト・IBASHO研究会



誰もが自由に足を運べ、参加できる余白や誰かとつながるきっかけを兼ね備えた「心地よい関わりが生まれる」居場所が、他地域でも立ち上げやすく続けやすくなるよう、2店舗の運営にて培ったノウハウの共有や学び合いをしています。



研修・調査の実施「3枚の葉っぱ」ワークショップ等

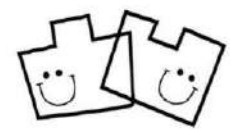


それぞれの事情のある方々も孤立することなく、まちの様々な人や場所とのつながりの中で思いを共有できるよう、多様な立場の方どうしが互いの思いを知る対話の場を大切にしています。「3枚の葉っぱ」のワークはその対話の手法の一つです。ご要望に応じて、市民の声を活かしたワークショップや研修を、行政や企業でも行っています。

また、活動内容をもとに大学の研究者との共同研究を実施したり、ご依頼に応じて講演に伺ったりもしています。



でこぼこの会



お子さんの発達に不安を持つ保護者・支援者・当事者・発達障害について知りたい方が参加し、おしゃべりや情報交換、勉強をする会です。

月に一度開催し、日常の中で何度でもその方のタイミングでいらしていただけるよう、お待ちしております。



ケアラズカフェ「えんがわ」



「子育てと介護のダブルケア」に直面している方や、「親のこれから」に不安を抱えている方、介護について早目に知っておきたい方が参加し、気持ちを共有したり情報交換をしたりする場です。

家族内のケアを家族だけで何とかしようと思わず、周りに甘えられる世の中になること、そんな場のひとつであることを目指しています。



ほっとひと息金曜日



小・中・高校生世代の不登校、ひきこもりのお子さんを持つ保護者や支援者が集まり、おしゃべりや情報交換をする会で、月に一度開催しています。

まずは親御さんが元気になることで、子どもにとって家庭が安全な場になると考え、笑顔を取り戻していただけるよう場をつくっています。



戸塚宿ほのぼの商和会事務局



こまちカフェが店舗の一つとして加盟している『戸塚宿ほのぼの商和会』の事務局を、2016年10月より務めています。

子育てに必要なまちのインフラを考え提案するなど、まちの中で子育てに関わる人を増やしていくきっかけとして役割を担っています。



とつかの子育て応援ルーム「とことこ」情報コーナーの運営



戸塚区役所内の「とことこ」の情報コーナーの運営を、拠点運営法人より受託・実施しています。

各家庭のニーズにあった、子育てに関するさまざまな情報を情報コンシェルジュがご案内します。



地域こそだてカレンダー



地域の子育て情報をデータベース化し、ネット検索できるように掲載しています。

拠点運営法人より受託し、たくさんの方の必要情報を探し出すことができるよう工夫しています。



2024 highlights!

2024年度は、過年に力を入れてきた「産前～出産直後・未就学児～学童期まで」の様々なステージでつながっていく場の展開に力を入れてきました。特にこまちカフェ・こよりどうカフェの両店舗では、こまちパートナーの方々をはじめとする様々な方とともに「心地よい関わりの生まれる居場所」を日々作り続けてきました。

また、そんな場を作りたいと日本各地でチャレンジしている方々向けのプログラムを、各地域の団体とのパートナーシップの元に開催しました。今後にも、日本全国の各地においてカフェ型居場所が立ち上げやすく学びあえる環境を整える素地を作った一年間でもありました。

こまちカフェ

2024年度は、店前やコーヒースタンドや地域のイベント等での販売にも力をいれ、新たに知っていただく機会を積極的につくりました。また同時に、近隣小学校の子どもたちが開発したものを販売したり、難しい病気を治療される患者さんご家族のための宿泊滞在施設（リラの家）への出張料理などを継続したりしています。

こまちパートナーの方々の「得意」を活かせる場に

これまでもパートナーさんには様々な場で活躍をしていただいていたが、2024年度は特に、こまちパートナーの方々の「やりたいこと」や「得意なこと」を活かせる場としての機能を充実させていきました。例えば、2023年度まではスタッフだけでランチをつくっていましたが、パートナーさんと一緒につくる日を順次増やしたり、毎週火曜日は午前中のカフェタイムにパートナーさんに絵本を読んでいただく「絵本読み聞かせの会」の取り組みを始めたりしました。



リラの家へのミールサポート

コーヒースタンド

こよりどうカフェ

開店より2年目となる2024年度は、初年に整えた体制を更にブラッシュアップして日々の運営に取り組みました。オリジナル商品の開発・改良にも力を入れ、味噌玉・チャイ・マフィン・かき氷・ハンバーガーセットなどが好評でした。

休日イベントの様子



こよりどうカフェ店内



味噌玉

保育園や近隣施設との連携

オープン時から「働きながら子育てをされている方々をご飯づくりで応援したい!」という思いで進めてきた「お惣菜を保育園にお届けするプロジェクト」では、お届け先の保育園が5園となりました。長期休みには近隣の学童施設へのお弁当配達も行ったほか、降園時やイベントでの出張販売にも出向くなど、ニーズに対応しながら進めています。

こよりどうカフェのお惣菜について



大丈夫、今日の晩ごはんは代わりにつくるよ!



大人用ごはんセット



お子さま用ごはんセット



お菓子部門

カフェに足を運べない遠方の方にもカフェの味やほっとする時間をお届けするお菓子部門。原材料等の価格高騰があるなかで、パッケージやシールのデザインの一新をするなど工夫を重ねました。毎月のクッキー缶「tamatebako」をはじめ、バレンタイン、母の日、ねこの日など季節や行事に合わせた様々な焼き菓子をオンラインショップで販売したり、近隣保育園にお届けしたりしました。

Sweets

横浜高島屋に出店しました！



2024年10月に高島屋で開催された「LOVE YOKOHAMA」に出店しました。お菓子担当のスタッフ采配のもと、製造から販売までをスタッフのみならず多くのパートナーさんにご協力いただき分担、ご用意したtamatebako30缶とミニ缶87缶が完売しました。

こまちぷらすの手づくりお菓子
オンラインショップ



区内の小学校で米粉の魅力を学ぶ5年生のクラスと交流し、米粉蒸しパンを開発しました。児童がパッケージデザインや地域での発信に取り組み、こまちカフェならびに小学校内で販売をする活動に発展するなど、お菓子づくりを接点に地域の活動につながる新しい価値を創出することができました。



ウェルカムベビープロジェクト

全国4か所に広がったウェルカムベビープロジェクト。4つの支部で贈った出産祝いは横浜市戸塚区で702件、横浜市鶴見区で346件、千葉県松戸市で296件、神奈川県茅ヶ崎で115件と、合計1459件となりました。



2024年度の出産祝い

更なる広がりができています！

2024年度、戸塚支部では16社の団体・企業さまが用意してくださったプレゼントを702人の赤ちゃんにお届けできました。また、授業や学童の活動の一環としてスタッフが活動の紹介に伺った際に、小学生や高校生にも背守りのメッセージを書いていただきました。

また、5か所目の支部が神奈川県川崎市川崎区で「川崎区支部」(事務局：一般社団法人大師ONE博)として発足することになり、立ち上げ準備の伴走をしました。



紹介動画が完成しました！



ウェルカムベビープロジェクトに関わる人や過程、思いについての紹介動画が完成しました！ぜひご覧ください。



カフェ型居場所の展開 ～長野&北海道～

長野



2023年度の岡山県での開催に引き続き、2024年度は長野県と北海道でそれぞれ、「心地よい関わりが生まれる居場所づくり」について8時間にわたる講座を開講(リアル&オンライン)しました。カフェを1日実際に運営する「1DAYこまちカフェ」インターンプログラムなどを通して、受講生一人ひとりが自身の構想をじっくりと練って発表するプログラムとなりました。

北海道



4月～6月までは長野県千曲市をメインに、ちくままちづくり文化祭実行委員会さんとの共催、特定非営利活動法人長野県NPOセンターさんのご協力にて12名の方々が参加、12月～2025年2月までは、札幌市内で「ハコニワ食堂」を開いていらっしゃる一般社団法人haconiwaさんとの共催で、9名の方々がご参加くださいました。

個人も団体も、自分たちだけで抱え込まなくていいこと、周りを見渡せば、応援してくれる存在や、一緒に歩める相手がいること、寄り添ってくれる先輩がいること、その心強さを感じながら、安心して様々なチャレンジを楽しめる環境が地域を越えてあちこちに増えていくこと、その先で、様々な地域に居場所が増えていくことに向けて、私たちこまちぷらすも動き続けていきたいと考えています。

(※なお、この講座は2023年8月～9月に実施したクラウドファンディングでいただいたご支援を元に開催しております。)

「3枚の葉っぱ」 ワークショップ

「3枚の葉っぱ」ワークショップは、それぞれの事情のある方々が孤立することなくまちの様々な人や場所とのつながりの中で思いを共有できるよう設計された対話の手法の一つです。コロナ禍では大人数で集い対話の席に着くことが難しく、とつかフューチャーセッションをはじめ、企業や行政に伺ってのリアルの場での開催は一時できなくなっていました。2024年度にはコロナ禍以前のように実施することができました。

とつかフューチャーセッション

11月7日に開催した第15回目のテーマは「子育ての今とこれから」。子育ての現状と「まちで子育て」が当たり前になる未来に向けて、ご参加者の皆さんで考えました。

行政や企業での研修も行いました

- 2024年7月 企業の主催による、産休育休取得者・復帰者向け「社内交流会」の企画・運営
- 2025年1月 自治体主催による「男性育児休業取得促進セミナー」の企画・運営



ワークショップの様子



Work shop



視察受け入れ・講師派遣・講演会も たくさんあった一年間でした

ワークショップ同様に、コロナ禍で下火になっていた視察の受け入れ・講師派遣や講演会のご依頼も多くいただいた一年間でした。

視察では特に学生さんが卒業論文や研究のためにいらして下さったり、他のNPO法人やケアプラザの方々からのご依頼を頂戴したりしました。



ニューオリンズとワシントンにて登壇



ロサンゼルス日本総領事館にて登壇

講師派遣や講演会では、厚生労働省重層的支援体制整備事業ワーキンググループで理事長の森が講師を務めたほか、日本を飛び出してザルツブルググローバルセミナーに参加したり、ロサンゼルス日本総領事館にて登壇する等、広がりが出てきています。

その他、大学との共同調査や共同研究等も進むなど、子育てが「まちの力」で豊かになる社会に向けて、様々な機関との連携が進みました。



講師派遣

Forbes JAPAN 10月25日号に掲載

12年間の日々の試行錯誤に目をとめていただいたのか「今注目のNPO 50」としてForbes JAPAN (10月25日号)に掲載されました。Forbes JAPANは、未来を切り開こうとする人々に「世界中の良いシードとストーリー」を届け、媒介することで社会の進化に役立ちたいと刊行されている、100年を超える歴史をもつ雑誌です。

私たちの日々の活動を「良いシードとストーリー」としてとらえていただけたことを大変嬉しく思っています。



Forbes JAPAN

<https://forbesjapan.com/articles/detail/74523/page8>



Yay!

スタッフ紹介の記録 スイッチインタビュー

Vol.1



猪谷 友子
ウェルカムベビー
プロジェクト

山本愛子
こよりどうカフェキャスト
とことこ情報コンシェルジュ

こまちぶらすは毎月1回、店舗を閉めてスタッフミーティングを行っています。ワークシェアをしていたり事業部によって活動する場所が異なったりするため、スタッフ同士でじっくりと話す機会が少ないのが現状です。そこで、2024年度から普段は顔を合わせることの少ないスタッフ同士でスイッチインタビューを開始しました。現在、vol.1～vol.5まで公開しています。ぜひともご覧ください。

ーこまちぶらすに関わるようになったきっかけ

山本 こまちぶらすに関わっていたお友だちから話を聞いて興味を持っていたんです。こよりどうカフェでスタッフ募集をしていることを教えてもらって、こまちぶらすでやっていることをもっと知ることができたかと思ひ、関わり始めました。「子育てがまちの力で豊かになる」ってどういうことなんだろうと思っていたので、それを体感しながら、自分がどうやって役に立っているのか、関わっていけるのか、模索しながら過ごしています。

猪谷 私は入職が2023年3月なので、ちょうど1年経ちました！子育てしながら働ける場所(こまちカフェ)があるのはいいなと、頭の片隅にあこがれのようなものがずっとありました。そして、下の子が生まれたときにはウェルカムベビープロジェクトの出産祝いをもらって嬉しかった記憶もずっとありました。そんな折に、こまちカフェでスタッフをしていた友だちからウェルカムベビープロジェクトの事務の募集をしているという情報をもらったというタイミングが重なって、今に至ります。

山本 ウェルカムベビープロジェクトのプレゼントがもらえるって知ったのはお友達から聞いたのですか？それとも自分自身で見つけたのですか？

猪谷 当時、とつとつ芽サテライトの近くに引っ越してきた頃だったです。下の子たちを連れて遊びに行った時に、チラシが貼ってあったのか…スタッフさんからももらったのか…プレゼントの存在を知って申し込んだのが一番最初のきっかけですね。

山本 そうなんですね。やっぱり子育て支援の場に行き初めて知るんですね。他にも知ったことって結構いっぱいありました？

猪谷 そうですね、その時はとつとつ芽サテライトができてすぐの時期だったんです。スタッフさんに「サテライトで季節の飾り付けをしたいから一緒にやりませんか。工作は好きですか。」って誘われて、飾り付けを手伝っていたんです。ちょうどハロウィンの前だったかな。声をかけてもらったことで、子どもと一緒に通ったり、みんなで一緒にいろんなことができるっていう楽しさをそこで知ったかなって思います。

山本 うんうん、いいですね。やっぱりお家の近くにそういう場があって、ふらっと寄れて、さらに関われるって、やっぱりいいですね。

ーこまちぶらすでやってみたいこと

猪谷 愛子さんは、今後こんなことをしてみたいとか、興味があることってありますか？

山本 そうですね。私はもともと子どもがすごく好きなので、どういう形でもいいから、子どもに関わることができたらいいなって思っているんです。こまちカフェで子育て中のお母さんにスポットを当てて働いてみたい、お母さんが活躍できる場を展開しているけど、お子さんを助けることでお母さんの助けに何かならないかな、なんて漠然と思っています。でも、それがどういう形なら実現できるのかは全くわからないんですけどね。

猪谷 ちなみに「とことこ」は、ご自身から手を挙げたんですか。

山本 そうです。当初、子育て支援に興味があったので、子どもを中心に何かできればいいなと思っていたので、とことこはそういうことができるというのを知って関われたらいいなあって思ったんです。

猪谷 もともと子育ての支援にも興味もあったっていうことなんですね。例えば、去年だとこまちカフェで夏休みに子ども店長や子ども向けのワークショップを結構やっていましたが、そういった子どもとの関わりも含んでいるんですか。

山本 そういうのもこよりどうカフェでできたらいいなと漠然とは思っています。夏休みにワークショップを開いて、子どもたちが体験できる場ができたらいねなんて、こよりどうの他のスタッフとも話しています。ワークショップをしていて、お母さんとお子さんがふらっと遊びに来たりとか。

猪谷 ああ、いいですね。

山本 例えばね、10分か15分お子さんを見てから、お母さんはちょっと一服してきてみたいな感じです。そういう場ができたらいなって。

猪谷 こよりどうカフェの一角にワークショップみたいなものを置いて、夏休みの期間だけちょっとやれたりしたら楽しいかもしれないですね。

山本 そうそう、例えば小学生向けに宿題を持ってきてもらって、一杯キッズドリンクを頼んでもらったら、その場で宿題もできる。お母さんたちはちょっと離れたところで休憩しながら見守る、とかね。小さい子と一緒に連れてきて、学童組とお母さん組と小さい子組でスペースが分かれて、でも同じ空間で過ごせる…そんな場があっても楽しそうだなと思う。………(記事より一部抜粋)

…続きはこちらの
二次元コードから
ご覧ください。



switch interview



こまちカフェ
キッチン
加藤 珠代



こよりどうカフェ
キッチン
四ツ柳 紗子

Vol.2



switch interview



法人事務局
赤川 真里



ウェルカムベビー
プロジェクト
松井 光理



こまちカフェ
キャスト
ななこ

Vol.3



switch interview



こまちカフェ
キャスト
大辻 裕美子



こよりどうカフェ
キッチン
菅原 陽子



こよりどうカフェ
事務室キャスト
商店会事務局
足立 裕子

Vol.4



switch interview



haco+リーダー
滝本 裕



ほっとひと息
ただい間のおうち
志田 幸子



こまちカフェ
キッチン
石崎 麻乃

Vol.5



2024年度 年間実績 ご支援・協働によって実現できたこと

子育て中の親を中心とした 対話 と 出番

のべ
20400人
程度

カフェ飲食の利用
イベントを開催・参加した人数



366人

発達障害・ダブルケア
不登校・ひきこもりを
テーマにしたおしゃべり会に
参加した人数

121人

産前・産後についての
講座やおしゃべり会に
参加した人数

子育てに関わる人が地域で増えました

702件

「出産祝い」をお届け
することができた件数
(戸塚区のみ)

112人

「出産祝い」の中に入る
背守りを縫ってくださった
地域の方 (延べ人数)

出産祝いのプレゼントを準備、協賛
してくださった企業数・団体数

16社



他地域に広がっています

カフェ運営に関する
ノウハウを展開した数

99件



約
760件

ウェルカムベビー
プロジェクト他3地区
(鶴見・松戸・茅ヶ崎)で
届けた「出産祝い」の数

新しくこまちパートナー
になった方の数

55人



のべ
580回
程度

こまちパートナーの方が
お手伝いをしてくれた数

こまちパートナーの方が
地域の子育てイベント情報
を入力してくれた件数

4件

こまちパートナーの方が
立ち上げた企画数

3300件

戸塚の子育て情報を必要な人に届けました

3300件

地域の子育て情報の
登録数



1349件

戸塚の子育て応援ルーム
「とことこ」にて受けた
相談数



全国に向けて実施した講演
ワークショップの数

50件



心地よい関わりが生まれるカフェ型居場所
の作り方講座を実施した累計地域数
(岡山・長野・北海道)

3カ所

2024年度 収支報告

科目		金額 (単位：円)	前年比
収入	事業収入	親子の居場所づくり事業 (カフェの場) 30,372,804	→ 102%
	提言・啓発事業	4,893,997	↑ 118%
	チャレンジ事業	(カフェの場) 4,020,753	↓ 85%
	委託事業 (情報)	2,604,470	↓ 93%
	コーディネート事業	2,202,790	↑ 113%
	親の学び合い事業	(カフェの場) 253,060	↑ 113%
	事業収入計	44,347,874	→ 101%
	助成金	2,140,000	↓ 94%
	寄付金	6,843,107	↓ 62%
	協賛金	2,833,910	↑ 128%
支出	会費	302,000	→ 101%
	その他	1,446,243	↑ 105%
	収入計	57,913,134	↓ 95%
	人件費	30,161,978	↑ 104%
	家賃/水道光熱費	3,524,521	↑ 110%
	仕入れ	7,858,595	↑ 103%
	支払い報酬/外注費	1,494,825	↑ 120%
	その他 (租税公課・消耗品等)	8,349,232	↑ 120%
	管理費	9,038,184	↓ 79%
	法人税 等	74,500	→ 100%
	支出計	60,501,835	↑ 121%
収支計		▲ 2,588,701	

複数の大学との共同研究に加え、居場所づくり講座をオンラインや日本各地で展開することができました。

イベントスペースの契約等が減少傾向にあります。体制づくりを行うなど、次年度に向けての準備を整えました。

三菱財団の助成金を得て、複数の研究者との居場所立ち上げについての2年にわたる共同研究をスタートしました。

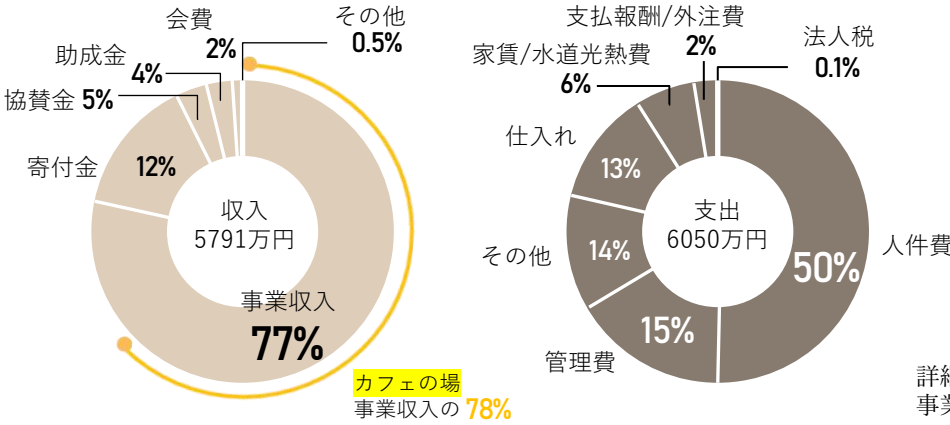
2024年は前年度の6割程度のご寄付額となりましたが、今年度も多くの皆さまに支えていただきました。ありがとうございました。

最低賃金の上昇や体制づくりのために人件費が増加しました

水道光熱費の高騰により必要経費の支出がかさみました。

様々な工夫をしたものの、物価高騰に伴う仕入れ額が増加しました。

ホームページの一部リニューアルや次年度以降の事業に向けた事業づくりのため外注費が増加しました。



収入では、事業収入が7割を超えています。また、約2割を寄付と協賛金により支えています。

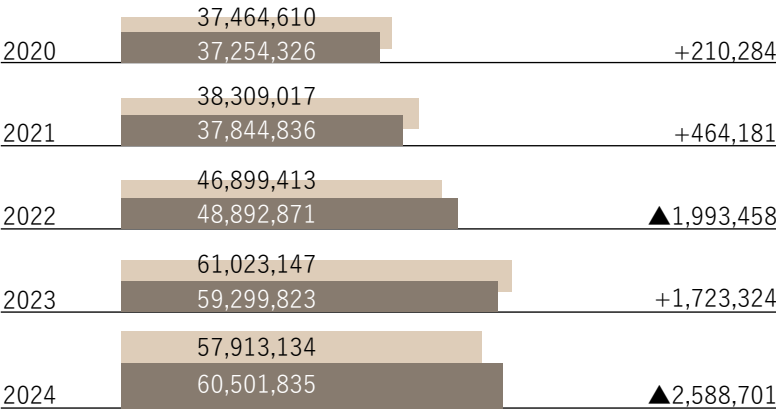
事業収入のうちの約8割は「カフェの場」での収入となっており、変わらず「場」の持つ力が発揮されるとともに、この場があってこそ他地域や他団体への展開等にも力を割くことができました。

支出は変わらず約5割を人件費が占めています。その他、運営に必要な家賃・水道光熱費や仕入れ等で2割程度を占めています。

詳細の収支計算書(活動計算書)や事業報告書はこちら▶



収入 支出 単位：円 2020年度～2024年度



収入および支出推移

2024年度は、数字としては約258万円の赤字決算となりました。想像を超える物価高や人件費の高騰があり社会情勢も激しく変化の中で、様々な対策を講じ、工夫を凝らして過ごしてきました。

今期は結果的に赤字となつてはいますが、組織運営や体制・仕組みづくりに力を入れて来られた一年間だったため、来年度以降に持続可能な素地を整えることができたと感じています。

事業規模が6000万円台となり、今後もますます一人ひとりの力が活きるような運営を行っていきたいと考えています。

こまちぶらすをご寄付で支えてくださっている皆さま

2024年度もこまちぶらすの活動に対し、あたたかいご支援を頂戴し、本当にありがとうございました。
今後も「子育てがまちの力で豊かになる社会」を目指して尽力して参りますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

K.M / 竹内 美紀 / kuroka / 高橋 麻衣 / J.I / 八幡 真弓 / 山本 雅美 / 伊藤 隆覚 / いけもんキッチン / A.N

竹下 諒 / 石黒 芳樹 / 東洋エニシア株式会社 / 大船こころの相談室 / H.K / ほりえ まさえ / 振屋 真梨奈

M.M / 保坂 美幸 / 室田 信一 / 堀田 聰子 / 鈴木 裕司 / s.s / 榎溪 奈美 / あさの / 清水 良介 / 鈴木 園恵

上田 よう子 / 高村 美智子 / 上田 千津子 / M.T / 株式会社heartrade / 有限会社HEART.COM / 今野 伸子

善了寺 / 高橋 由奈 / 田島 敏子 / とつもり会 / 三木 孝仁 / 山崎 泰司 / 山崎 雅子

ご氏名掲載はご許可連絡を頂いた方のみとなります。
(敬称略 順不同)

ご支援いただいた企業・団体の皆さま



その他多数の企業・団体の皆さまにお力添えいただきました。心より御礼申し上げます。ロゴ掲載は、ウェルカムベビープロジェクトへのご支援やチラシ協賛でご支援くださった企業・団体の皆さまのみとなっておりますこと、ご了承ください。
(順不同)

寄付者の声



高松 未穂さん

これまで、企業や団体が掲げるビジョンや理想は、どこか現実離れした“夢物語”のように思っていました。でも、こまちぶらすの活動を通して、その想いがちゃんと形になっていると感じることができました。自分が応援しているお金が、誰かの役に立っているんだと実感できて、あらためてよかったなと思っています。



鈴木 裕司さん

こよりどうカフェの2周年記念イベントに参加した際、代表の「2歳のイヤイヤ期」という言葉が印象的でした。大変なこともあるけれど、「3周年をおめでとう」そして「ありがとう」と言葉を交わせる日がくるだろうと信じています。そしてこまちさんを知ってから、もう何年も経ちますが、その場の優しさがとても好きです。何回行ってもこの感覚は変わりません。

ー ご支援はこのようなに使われていますー

ウェルカムベビープロジェクトを通して

500円で出産祝いを1人の赤ちゃんに贈ることができました。

産前産後の方々が集まる場をつくり、地域の子育て情報の発信をすることができました。



こまちカフェ・こよりどうカフェの場で

夏休み明けの「#学校無理でもここあるよ」キャンペーンで居場所をつくることができました。

産前産後のママたちのおしゃべり会を開催できました。

不登校/ひきこもり、お子さんの発達に心配のある方等のおしゃべり会を開催できました。

新作メニューの開発に使わせていただきました。

お花やおもちゃなどのメンテナンスに使わせていただきました。



団体概要

団体名／所在地 | 認定特定非営利活動法人こまちぶらす／〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町145-6奈良ビル2階
スタッフ／パートナー数 | スタッフ 46名／こまちパートナー（登録ボランティア）371名

役員【理事長】森 祐美子
【理事】河合将生（office musubime 代表）
【理事】菅原健介（株式会社ぐるんとびー代表取締役）
【理事】古川貴一（UiPath株式会社 執行役員）
【理事】棒田明子（NPO法人孫育て・ニッポン理事長、NPO法人ファザーリング・ジャパン、（一社）産前産後ケア推進協会幹事、ここみて港北 代表）
【理事】大塚朋子（特定非営利活動法人こまちぶらすマネージャー）
【理事】山田顕子（特定非営利活動法人こまちぶらす事務局長）
【監事】瀬上倫弘（公益財団法人日本非営利組織評価センター事務局長、横浜市立大学客員研究員）

(2025年3月31日現在)